



平成 27 年 7 月 22 日

各 位

会 社 名 日本電産株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長 永守 重信  
取 引 所 東証一部(6594)  
NYSE(NJ)  
問合せ先 広報宣伝・IR部長 田村 徳雄  
T E L (075)935-6150

**PT. NAGATA OPTO INDONESIA の株式取得に関する  
株式譲渡契約締結のお知らせ**

日本電産株式会社（以下、「当社」）の子会社の日本電産サンキョー株式会社（以下、「日本電産サンキョー」）は、PT. NAGATA OPTO INDONESIA（以下、「ナガタ インドネシア」）の持分 100%をナガタ インドネシアの創業家株主から取得（以下、「本件取引」又は「本件株式取得」）することに合意し、株式譲渡契約を締結致しましたので、お知らせ致します。

記

1. 本件取引の背景と目的

日本電産サンキョーは、日本電産グループの一員として、自律成長と積極的なM&Aを両輪とする成長戦略に基づき、各事業の成長と発展を目指しております。2012年10月に韓国の家電用ユニットメーカーSCD Co., Ltd.を子会社化し、2014年1月には車載用モータ・電気接点メーカー三菱マテリアルシーエムアイ株式会社(現日本電産サンキョーシーエムアイ株式会社)を子会社化することで、製品ポートフォリオの転換・多様化を図って参りました。今般株式を取得するナガタ インドネシアは車載カメラ用のガラスレンズを主力製品としており、本件取引により、日本電産グループが重点を置く車載事業のさらなる成長を目指してまいります。

日本電産サンキョーはプラスチックレンズユニット事業を得意とし車載カメラ用レンズユニット製品を積極的に展開しておりますが、一部の車載カメラ用レンズユニットは、その厳しい使用環境によりガラスレンズの使用が求められます。また、車載カメラレンズユニットの分野では、今後センサー用途の需要拡大が見込まれるため、高い精度を実現できるガラスレンズの採用比率が高まって使用量が飛躍的に増大することが見込まれます。ナガタ インドネシアはガラスレンズ加工技術に強みを有しており、日本電産サンキョーは本件取引を通じてガラスレンズ加工を内製化することで収益性を高め、積極的な投資で生産能力を増強することで、拡大する市場からの需要に応え飛躍的な成長を目指してまいります。

また、ナガタ インドネシアのグループ会社である株式会社永田製作所（以下、「永田 S S」）は、ガラスレンズ加工設備の開発を得意としており、ガラス研磨設備の開発では世界のトップクラスの実力を保有しております。今後のガラスレンズ生産量の飛躍的な拡大を見据え、車載用レンズを日本電産サンキョーが増産するにあたっては、永田 S S の全面的な協力を得て事業を拡大してまいります。

## 2. ナガタ インドネシアの概要

- (1) 社 名： PT. NAGATA OPTO INDONESIA
- (2) 代 表 者： 島津 一博
- (3) 本 社 所 在 地： インドネシア ボゴール県
- (4) 設 立： 2009 年
- (5) 事 業 内 容： ガラスレンズ加工
- (6) 従 業 員 数： 306 名（2015 年 6 月末）
- (7) 株 主 構 成（所有％）： 創業家（100％）
- (8) 売 上 高： US\$3,936,405（2014 年 12 月期）
- (9) 総 資 産： US\$3,739,501（2014 年 12 月期）

## 3. 本件株式取得の概要

- (1) 対価  
対価は現金とします。
- (2) 決済及び資金調達方法  
手元現預金を充当致します。
- (3) 子会社化のストラクチャー  
日本電産サンキョーが株式譲渡契約の当事者であり、日本電産サンキョー子会社の PT. NIDEC SANKYO PRECISION INDONESIA と共同でナガタ インドネシアの株式を譲り受ける建付けです。
- (4) 今後のスケジュール  
平成 27 年 9 月中旬 クロージング（予定）

## 4. 今期の業績に与える影響

本件取引が今期の業績に与える影響につきましては、詳細が確定次第、証券取引所における適時開示規則に基づき適切に公表するとともに、業績予想の修正がある場合には改めて適時にお知らせ致します。

以 上